



# 日本の緑化事情 / ニッチなスペースに緑化を展開

緑化が一般的になり、各自自治体からも様々な条例が施行されて、特定条件下での緑化が義務づけられるようになってきました。

なかでも工場立地法により、面積九〇〇㎡以上または建築面積三〇〇㎡以上の製造業、電気ガス、熱供給業（水力・地熱発電所を除く）など業種別に敷地において10%、65%を緑地化するというものがあります。

敷地の半分を緑化しなければならぬというのは、経営者にとつては生産する為の敷地面積が狭くなるわけですからかなり厳しいものとなります。

その為、工場立地法の改正がなされて、緑化面積の25%を屋根に設置できるようにしたり、高さが2メートルまでなら壁面緑化もカウントされるようになりました。

しかし緑化面積を確保しつつ、生産スペースを上げるための工夫をしたいところ。

そこで、敷地の条件にもよりますが、さらに有効活用するための手法として「**法面緑化**」もおこなわれていきます。

通常法面など敷地ではあるものの、活用する面積には計算されません。そこに建物を建てるわけにもいきませんし、いわゆる使い道の無い敷地と言っても過言で無いと思います。

しかし、この法面に緑化を施すことで、法面により義務づけられている緑化面積にカウントが可能なのです。つまり役に立たないと思われるスペースが役に立つてくれるわけです。

さらに、法面は外道と接することも多い為、第三者から見た場合の景観にも一役を買います。無骨なフェンスだけしか無いよりも、みどりも季節によっては花も咲く一石二鳥の緑化です。

**大日製品現場レポート** 大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



東京都ではヒートアイランド現象の緩和、都市景観の向上などから2001年に改正自然保護条例を施行し、敷地面積1000㎡以上の民間建築物（公共建築物は250㎡以上）を新築する際、利用可能な屋上面積の2割以上の緑化を義務づけられており、さらに2004年には「都市緑地保全法」の改正により各市町村が指定した区域での大規模ビル開発などの際に一定の割合で緑化を義務づける内容が盛り込まれました。これをきつかけとし、建築物への緑化が盛んになり、様々なメーカーから屋上緑化工法が開発・販売されました。（大日化成も2002年から薄層屋上緑化システムを販売）

近年新型コロナウイルスの影響もあり、新築工事の着工数は減少、それに伴い建築緑化の面積も減少傾向にあります。弊社で近年お問い合わせ

が増えているのが屋上防水改修工事に伴う屋上緑化のやり替えです。

建築緑化ブームにより緑化が設置された建物も10、20年近く経過しており、防水改修を行うタイミングになってきていますが、防水改修の事まで考えて屋上緑化を設計・設置して屋上改修を行う際の屋上緑化をどうするかが問題になります。屋上緑化を設置している場合、既存の屋上緑化部材を撤去してから防水工事を施工し、屋上緑化の再設置が必要になります。設置されている屋上緑化の仕様によっては、この作業がかなり大掛かりなものとなってしまうのです。

大日化成の屋上緑化ユニット「VUS500」は、軽量のユニット型となっており、ため、防水工事の際の一時撤去・再設置が容易な「VUS500」を導入する事になりました。

今回、屋上緑化改修を行った現場でも、将来の屋上防水改修工事を見越して、改修時の屋上緑化の一時撤去・再設置が容易な「VUS500」を導入する事になりました。

緑化事業を行っていない方も、提案から現場打合せなども行いますので是非とも弊社までお問い合わせ下さいませます。よろしくお願致します。

**DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.**

●本社  
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13  
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店  
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F  
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

## 映画で学ぶ 環境問題



**プロミスト・ランド**  
原題：Promised Land

監督：ガス・バン・サン  
出演者：マット・デイモン  
制作国：アメリカ合衆国  
上映：106分  
公開：2014年

天然ガスをあなたの街に。というCMにご記憶がある方も多いのでは無いかと思います。昭和40年代後半から平成に掛けて大阪では供給するガスの種類を石油系ガスから天然ガスへの切替が行われ、現在都市ガスとしては天然ガスの13A・12Aの2種類に切り替わっています。

天然ガスとは化石燃料の炭化水素ガスで地下奥深くから噴出するガス(LNG)のことで、メタンが主成分で液化時に硫化化合物が取り除かれるため燃焼時に硫酸化物(SOx)が出ません。

二酸化炭素の排出も、石油に比べると大幅に少ないクリーンなエネルギーです。また一般家庭に供給されているものは一酸化炭素を含みませんので一酸化炭素中毒になりません。ほかにタンカーでLNGを輸送中に万が一海に漏れてもすぐに気化してしまうので海を汚さないこともクリーンと言われる由縁です。

天然ガスは砂が固まってできた砂岩の層や石灰岩その他の層の岩石粒子のすきまに溜まっている天然ガスで「在来型ガス」といわれています。一方で頁岩（けつがん）と呼ばれる硬い岩の層に閉じ込められた状態の天然ガス「非在来型

ガス」というものもあります。在来型は井戸を真つぐ掘るだけで採掘できますが、非在来型は従来の方法ではほとんど採掘できず採算に合わない為にほとんど利用されていません。

ところが技術革新で安価に採掘できる方法が出来るようになり、新たな自然エネルギーとして注目され始めました。このガスの名前は「シェールガス」というものです。シェールガスは在来型が産出できなかった地域以外でも大変多く埋蔵していることが確認されており、非常に注目されています。

この映画ではアメリカのある農村にシェールガスの産出が期待できるため大手ガス会社が地主と交渉し採掘権を確保する契約を取りに回る物語なのですが、貧困に苦しむ農家がガスの産出で裕福になり、子どもを大学に行かせることが出来るなど生活・人生が変わるというのを決めゼリフとして契約を取っていくのですが、ある高校教師が環境汚染問題を主張したことから簡単に済むはずだった契約に歯止めが掛かりません。さらに環境保護団体の1人が出でてきてガスを産出する際に出る物質が土壌に悪影響を与えて家畜が死んでしまおうという他所での開発時の写真を散時キネガティブキャンペーンを始めたのです。

その後はネタバレになりますので結果は控えますが、これまで外国から輸入に頼っていたエネルギーを自国

で産出できるメリット、天然ガスは石油系に比べてクリーンであり産出権での収入等と天秤に先人が開拓して引き継いできた土地を環境破壊してしまうのかという住人とエージェンツの葛藤が描かれています。

シェールガスを採掘するには超高压な水圧を利用して岩盤に割れ目をつくりその隙間からガスを噴出させる方法なのですが、その時に水圧だけではなく薬剤を利用するので、それらが悪影響を及ぼすというものです。実際には違うかもしれないのですが、エネルギーを産出するために環境汚染とのトレードオフと言ふ事には考えるものがあると思います。本映画では契約を取りに回るエージェンツや地元の人とのヒューマンドラマとして描かれています。実際に開発する際にはどうなっているのかと考えるものがあります。

利益のために開発を強引に行うのは、利益が見込めるからであって、そこまで本当に必要なのか？という事も考えさせられました。

少しの節約、少しの利便性の我慢などを全ての利便性の享受者がおこなう事で、自然への影響を少しでも抑える事が出来るのでは無いか？なども考えさせられる作品でした。